

主 題：老いた若人と若い老人
 聖書箇所：テトスへの手紙 2章2節

今日は「父の日」ということで、皆さんといっしょに男性について学んで行こうと考えています。

「母の日」に近藤先生は女性へのメッセージをされましたから、男性が今年は何も聞かないというのは問題かなと思ひ、また、女性の皆さんが「男性はどうなっているのか？」と思われても困るので、いろいろなことを考えながら、先週は今日のメッセージの準備をして来ました。

私はこの話をするのが余り好きではありません。なぜなら、非常に話し難いからです。私も男性です。私がここで話すことは直接的に自分自身に響いてくることなので非常に困ります。話をしながら、皆さんに指を指されて「あなたはしてないではないですか」と言われると、全く説得力のないメッセージになってしまうのではないかと思うので、この一週間どころか、これまでの人生の一つひとつ、この教会で皆さんといっしょに交わり、働きをするようになってからの一日一日、一步一步を非常に考えさせられました。そして、少なくとも、自分自身の心を吟味して、このような人物になって行きたいと思っていることを確信しつつ、今日は皆さんとこの男性に関する教えを見て行きたいと思ひます。

タイトルをご覧になって不思議に思われた方がいらっしゃるかもしれません。「老いた若人と若い老人」、何のことかと思われるかもしれませんが、一言でまとめるなら、今日、皆さんに伝えたいことは、私たちが男性であるなら、パウロが私たちにみことばを通して教えること、神がみことばを通して求めているような人物になっていかなければいけないということです。私たちは、歳を取るともっと若くありたいと願うわけですが、霊的な成長においては若くなりたいたとは思わないでください。若くても、成熟した者でありたいと願ひ続けてください。そして、歳を取っておられるなら、その成熟さをもっともっと大いに教会の中で現わしてください。若い老人になって欲しくないのです。むしろ、どんな男性でも、年齢を重ねた者であるかのような生き方をさせていただきたいのです。それが今日、皆さんと見ていきたいことです。それがどのような人物なのかをごいっしょに考えたいことです。

人間の歴史の初めから、人は神から非常に大切な役割を与えられ、社会での責任を全うするように求められていました。最初に造られた男性のアダムは、自分の妻を導き、神が与えてくださった役割を全うして生きる責任を託されていた訳です。けれども、神が「すべては良い」と言われたそのすぐ後、創世記3章に記されているときには、もうすでに、アダムは、そして、その後続く男性たちはその責任を全うせずに生きるようになりました。それゆえに、この世界は大変な混沌の中に置かれていると言えるのです。皆さん考えてみてください。

なぜ、アダムはエバに対して、

- ・「蛇と話してはいけない」と言わなかったのでしょうか？
- ・「その実を取ってはいけない」と言わなかったのでしょうか？
- ・「私は断固、その実を食べない」と言わなかったのでしょうか？

彼は神のことばに聞き従うべきだったのです。そのはずだったのです。その役割が与えられていたのですが、彼はそれとはまさに全く反対なことをしました。妻を導く責任が与えられていたのに、彼はそれと反対のことをしたのです。エデンの園で、アダムは妻のことばに聞き従い、妻に導かれて罪を犯したのです。アダムに与えられた役割をアダムは守り通すことなく、神の命令に従わないという選択をして以来、それが原因で、人間の社会は非常に大きな問題を抱えるようになりました。

もちろん、その最たるものは罪です。罪ののろいもそうです。この世界は罪のゆえに神によってのろわれた世界です。そして、私たちはその報いを今も感じながら生き続けています。でも、それだけではありません。確かに、そのように全世界中において、この罪とそののろいの影響を実感しながら私たちは生きているのですが、このアダムの罪は、私たち男性において今も顕著に表われているものの一つではないかと思ひます。社会において、家庭において、そして、特に教会においても、男性はアダムが最初に罪を犯したように、男性としての役割を正しく全うするその責任を果たすことなく生きていることが多々あるからです。

神の前に敬虔な神に喜ばれるリーダーシップがもたれていないときに、そこには大きな悲劇が見受けられます。そして、私たち男性たちが立ち上がる必要を感じなければいけないのです。男性の皆さん、「私は神が与えてくださっている役割を全うするのだ。」という決意を持って立ってください。それが私たちの社会において、私たちの家庭において、私たちの教会において、何よりも必要なのです。

今朝、皆さんといっしょに男性について考えていきます。なぜ、私たちが男性について考えないといけないのか？「父の日」だからではありません。男性が持っている役割が余りにも重要だからです。男性の皆さん、今日このメッセージが皆さんにとって大きな励ましになることを願っています。もし、皆さんがこのような人物になろうと心から願っているならば、その方向に進んでいこうとしていることを益々喜び、励まされて、この教会を出て行っていただきたいと思います。その扉を開けて、自分の家庭へ、自分が生きている社会へと。もし、皆さんがここに記されている特徴とは違う生き方をしているとすると、今日、皆さんにはぜひこの場で主の前でへりくだり、悔い改めていただきたいと思います。そして、扉を出るに当たって、新しい生き方をしていくという決意を持っていただきたいと思います。なぜなら、皆さんが主に喜ばれるこのような特徴を持って生きていくことが、余りにも大切だからです。

パウロはテトスへの手紙の中で、男性がどのような人物であるのかを教えようとしています。事実、パウロはテトスへの手紙の中で、健全な教会を建て上げて行くために、男性たちはこのような者でなければいけないということを教えようとしていました。その箇所を通して、私たちは男性が持つべき四つの特徴を考えます。女性の皆さん、どうぞ、自分のことではないと思わないでください。なぜなら、これらの特徴は皆さんにも見られるべきだからです。テトスへの手紙2章1節と2節を見るのですが、3節から6節までも見たいと願っています。なぜなら、そこには男性と女性の役割が記されているからです。

でも、今日は男性について学びます。他人事だと思って聞かないでください。皆さんすべてに関係あることです。でも、特に男性の皆さんは聞いてください。なぜなら、男性に必要なことだからです。目標は、男性の皆さんが勇気づけられ、励まされて「私はこういう人物になる」と言って、今日この場を去ることです。テトスへの手紙2章1節、2節を読みましょう。

2:1 しかし、あなたは健全な教えにふさわしいことを話しなさい。

2:2 老人たちには、自制し、謹厳で、慎み深くし、信仰と愛と忍耐とにおいて健全であるように。

ここには四つの特徴が記されていますが、その特徴を見る前に、私たちはいったいだれに対してこのことばが投げ掛けられているのかを、具体的に考えなければいけません。パウロはテトスに対して、だれに話さない、だれに、このような特徴をもつようにと言っているのかを調べなければいけません。本来なら、この箇所の文脈を詳しく見たいのですが、この箇所に至るまでの過程を短く見ましょう。

パウロはテトスをクレテ島に置きました。テトスをクレテに残して、そこに教会を建て上げるように命じたのです。それが彼の務めでした。その務めが与えられたテトスに対して、

・**長老を立てること**=1:5-9、テトスが最初にしなければいけない仕事としてパウロが託したのが、1章の5節から記されている「長老を立てる」ということでした。長老はこのような人物でなければいけないというその条件が、最初の箇所に記されているのです。

・**偽教師を戒めること**=1:10-16、そして、その働きをしっかりとして長老が立てられたなら、その長老たちといっしょに、偽教師たちの間違った教えを止めさせることです。彼らを戒めなければいけないとパウロは記します。偽教師たちが横行していたのでしょう。クレテ人の中に道徳的に怠惰で非常に墮落していた人たちがいて、そのような人たちが教会の中にもいたのでしょう。彼らに対して厳しく戒めることをパウロはテトスに命じたのです。

・**信仰の家族である教会について教える**=2:1-3:11、「しかし、」と2章1節に記されています。ここから3章11節に至るまで、パウロはテトスに対して教会とはどのようなものであるのかを教えてください。特に、2章の中ではこの教会において言わなければいけない、伝えなければいけない、五つのグループの人たちを上げて話をします。

最初に、これから見る「老人たち」、年配の男性です。そして、3節では「年をとった婦人たち」、4節には「若い婦人」、そして、6節には「若い人々」とあります。老若男女を含めます。そして、特に、9節には「奴隷には」と言って、人々に仕える人たち、このような人たちが教会には多くを占めていたのでしょう。その人たちに対する教えがなされているのです。パウロはこうして教会に属するすべての人たちを網羅して、そして、教会とは、このような人たちが集まるところでなければいけないと言います。教会に来るクリスチャンはこのような人物でなければいけない、そのようになるように、あなたたちは一生懸命に働きを為さなければいけないと勧めるのです。

ここに記されていることは、教会がどのようなものであるべきかを考えるときに非常に大切な個所です。教会にいる人たち、クリスチャンがどのような人物であるのかを考える上で、非常に重要な個所です。その冒頭に、パウロはテトスに対して「年配の男性たちには」と言います。パウロは1節でテトスを励ましました。「あなたは健全な教えにふさわしいことを話しなさい。」と勧めています。偽教師たちは明らかに健全な教えを伝えてはいませんでした。だから、彼らは戒められて沈黙させられなければいけなかったのです。「テトス、あなたは長老たちとともに教会の人たちに対してこういう健全な教えをしなさいと

いけない。神が教えておられるその通りのこと、その教理、神学、真理を人々に伝えなければいけない。」と言うのです。継続して伝え続けなければいけないと。

いったい、だれに伝えるのでしょうか？それが今、私たちが考えたいことです。新改訳聖書では「老人たち」と訳していますが、皆さん「老人たち」と聞いたとき、どのような人物を想像されますか？私がずっと思っていたことは、「老人たち」ということばのゆえに想像するのは、白髪の、もしくは頭髪のだいぶ薄くなった、ひょっとしたら杖をついていて腰の曲がっているおじいちゃんの姿でした。ここで使われている「老人たち」と訳されていることばは、すでに出て来た「長老」ということばと似たことばですが、同じことばではありません。この「老人たち」ということばは、実は、新約聖書の中でここを含めて3回しか出て来ません。その箇所を見るとある程度の年齢の推定ができます。ピレモンへの手紙9節ではパウロが、自分自身を指してこう言っています。「むしろ愛によって、あなたにお願いしたいと思います。年老いて、今はまたキリスト・イエスの囚人となっている私パウロが、」と。原文を見ると、「私パウロ、老人」とあります。パウロは自分で、自分が年老いた人物だと言うのです。パウロがピレモンへの手紙を書いた時、推定で60歳であったろうと言われます。つまり、パウロがこのことばを使ったとき「私は老人だった」と言うのですから、明らかに60代を考えています。もう一つの箇所はルカの福音書1:18です。「そこで、ザカリヤは御使いに言った。「私は何によってそれを知ることができましょうか。私ももう年寄りですし、妻も年をとっております。」、ザカリヤは自分のことを「年寄り」と言っています。

でも、もう少し厳密に考えてみましょう。実は、このことばは聖書だけでなく、ギリシャ語の一般的な文献の中にも使われて記されています。そこでは、一般的に50代よりも上の人物を指しています。随分幅が広がりました。ある資料によると、実は、パウロがこの手紙を書いた1世紀のクレテ島では、その平均寿命は40歳代半ばだったと言います。もし、それが事実なら、パウロが「年配の男性たち」と言って考えていたのは、幾つ位でしょう？具体的に年齢が何歳なのかは記されていませんから、あくまでも推測しないといけませんが、ちょうど、教会の長老たちが何歳からでなければならぬとは定められていないのと同じように、ここでも具体的な数字のことを話しているのではありません。でも、パウロが「年配の」と言って、明らかに若い男性と年老いた男性とを比較していますから、ある程度、年齢がいった人たちであることは間違いありません。10代、20代の人たちを指して「年配の」とは言いません。でも、可能性として十分考えられるのは、パウロは40代よりも上の人たち、多分50代よりも上の人たち、いや間違いなく、60代よりも上の人たちがここに含まれます。

「年配の男性たち」はこのような者でなければいけないと言うのです。「私はまだ30代です」と言われる皆さん、皆さんはもうすぐこのような人物でなければいけないのです。言い訳できません。まだ、20代です、10代です、という皆さんは、男性ならこういう人間を目指して生きなければいけないのです。随分身近になりませんか？その特徴を見て行きましょう。四つあります。40代以上であるなら、このような人物であるはずだとパウロが言うその姿です。

☆年配の男性のあるべき特徴

1. 節度のある者

最初に「自制」と訳されていることばは、実は、字義的に捉えるなら「酔っていない」という意味があります。もしくは、何かの中毒になっている、依存していることの反対を言います。何かに過度に傾倒していること、その反対を言います。それゆえに、ときにこのことばは「しらふである」と訳されることがあります。実際に、このことば自体が「禁酒している姿」を表わすために使われる場合もありますが、往々にしてこのことばは比喩的に捉えられて、過度に何かに耽ってしまうこと、聖書では「耽溺」という難しいことばを記している箇所もあります。そのようなことを避ける、節度のある生き方をしている姿を表わして使うことばです。

でも、ここで言わんとしているのは「節度のある姿」です。つまり、パウロはここで、年配の男性たちは節度をもって、過度に何かに耽ってしまう、傾倒するというようなことがない者であると言っているのです。そうでなければいけない、そうあるように勧めなさいと言うのです。皆さん、若い男性たちはいろいろなことに過度に傾倒しませんか？過剰になることがありますか？ある一つのことにのみ耽ってしまうようなことがありますか？最近は特に多いですね。若い者、小さな子どもたちまでが、どこに行ってもいつも両手が自分の体の目の前にあります。ゲームをしているのです。家族で食事をしているとき、お父さんとお母さんは二人で会話をしている、子どもたちはゲームをしているということがありませんか？10代、20代の子どもの子どもたちが自分たちの興味のあることだけに集中してしまって、過度にそればかりを追い求める姿を私たちは見かけませんか？節度がないのです。自分の思っていることを何とか成し遂げたいとしか思っていないから、その節度を知らないのです。過度にそのことに耽って

しまうのです。若い人たちは自分たちの願いや、自分たちの夢を追い求めて、一生懸命生きていこうとしますが、年配の男性たちは、そのような過度な部分を人生の経験という布で漉して、そのようなものを後ろに置いている人物だと言うのです。

節度を持っている。自分たちも多くのものを追い求めて集めて来たかもしれませんが、それらを願って、それらに耽っていたかもしれませんが、年を重ねることによって、何が本当に価値があるのかを知った人物です。だから分別があるのです。人生において最も重要なものが何であり、何が重要でないのかをしっかりと理解しているゆえに、その人物は、すべての事柄を自分の持っている願望や、自分の夢や、あらゆる事柄を、正しい価値観というめがねを通して見る事ができるのです。つまり、この人物は、優先順位をしっかりと持っています。

年配の男性の皆さん、皆さんには多くの経験があります。これまでの人生の中で、皆さんはたくさんの成功を取め、素晴らしい業績を為されて来られたことでしょう。けれども、クリスチャンとして皆さんがよく分かっていることは、それらのあらゆる地上の宝は価値のないものであるということを知っているはずで、人からの誉めことばは、主からの称賛に比べるなら、全く意味のないものであることを皆さんはよくご存じのはずです。それゆえに、皆さんには節度があるのです。過度にならないのです。何かを追究し続けて大切なことを見失ってしまうことがないのです。バランスの取れた人生を生きているのです。

若い男性は多くの事柄にエネルギーを費やします。でも、年を取ると賢くなって、今までどんなに無駄にエネルギーを消費、浪費して来たのかを悟ります。そして、残された人生を本当に重要なことに力を注いで生きて行こうとしませんか？そのような知恵が人々に伝えられていくことが大切なのです。

また、このことは、クレテ島で生きていた人たちとは随分違う生き方だと思いませんか？1：12に「クレテ人は昔からのうそつき、悪いけどもの、なまけ者の食いしんぼう。」と、ずいぶん酷いことが書かれています。クレテ人はそういう人物だったと言うのです。そのような社会にあって、道徳的に正しくないなまけ者であって、食べることに過度に興味を示しているのです。そのような社会にあっててもクリスチャンとして成熟した人物は節度を知っているのです。美味しいものを食べることは素晴らしいことです。感謝して食べましょう。でも、そのことばかりを追い求めることはしないでください。怠けることを求めない、怠惰であろうとしないのです。正しく生きようと心から願い、節度を持っているのです。私たち日本の社会もこのようではありませんか？クレテ人ということばを日本人と置き換えてもいいように思いませんか？今、道徳的な堕落を私たちは体験しています。勤勉であると言いつづけられてきましたが、その勤勉さはどこにいったのでしょうか？皆さん、思いませんか？今は若者だけではありません。リタイアした男性たちもそのような怠惰の中に身を置くことを喜びとしている人たちが多くいるという現実を私たちは抱えています。

パウロは言うのです。「節度をもって生きてください。何が本当に必要で、何をしなければいけないかを知って、それをやっといこうと生きている。」と。男性の皆さんには、このような節度をもって生きる姿を示していただかなければいけないのです。何をすることが相応しいのかをしっかりと考え、それを正しくやっといく、そのバランスが必要なのです。社会に貢献することは素晴らしいです。でも、社会に貢献しても家族を置き去りにしているなら、何が素晴らしいのですか？「私は、世の中のために、社会においてこんな立派な仕事をしました。」と言っても家族が見捨てられているならどうでしょう？それは神が喜ばれますか？社会が、家族が大切だからと言って、教会での責任を無視するなら、神は喜ばれるのでしょうか？バランスをもった節度のある人生を生きる人物が、クリスチャンとして成熟した年を重ねた人物なのです。

私たちには、年をとった男性が必要です。過度に食べることや飲むこと、自分の快楽を追求することや、また、眠りをむさぼることに傾倒していない、むしろ、パウロと同じように「私はこの一事に励みむ」と言っているその人物です。パウロは何に励んでいましたか？「いつの日か、復活の主と同じ姿になる、そのことだけを私は目指してその一事に励みます。」と言いませんでしたか？皆さんはそのような人物ですか？

2. 厳肅、真剣である

この「勤厳で」と訳されていることばは日本語でも難しいですね。余り使いませんが、このことばは真剣にいろいろな事柄を捉え、人々から尊敬を受けるにふさわしい、尊ばれる、立派な人物を表わします。ピリピ4：8でパウロはこのことばを使っていますが、そこでは「誉れ」と訳されています。それがこのことばの意味です。「最後に、兄弟たち。すべての真実な事、すべての誉れある事、すべての正しい事、すべての清い事、すべての愛すべき事、すべての評判の良い事、そのほか徳と言われること、称賛に値することがあるならば、そのようなことに心を留めなさい。」、確かに、パウロはここで「高慢さ、横

柄さ」と言っているのではありません。「私は尊敬に値する」と言って威張っている人たちのことではありません。パウロが言っているのは、人生を真剣に生きようとし、すべてのことを真剣に捉えて生きている人です。それゆえに、尊敬に値する人、人々から「あの人はすばらしい人物である」と思われている人たちのことを言っているのです。

皆さんに誤解されないように言いますが、真剣、厳肅、勤儉ということばを聞くと、何となくその人はいつも堅苦しくてつまらない人ではないか、陰鬱な人ではないのかと思われがちですが、そういうことではありません。この人は道化、ピエロではないのです。軽薄でへらへらしているのではありません。浮ついて不真面目な人物ではありません。彼が歩いていくその人生には常に真剣さがあります。この人は正直で誠実で、威厳と品位をもって歩む人です。年配の男性は、人生がいかに深刻なものかを知っています。年配の女性でも同じでしょう。年を重ねると、人生がいかに深刻で真剣なものであるかが分かります。多くの人たちはもうすでに自分の両親たちを永遠へと送りました。その悲しみ、その苦しみを知っています。多くの人たちは自分の愛する者たちを失いました。いろいろな悲しみ、苦しみを経験し、いろいろな問題にぶつかり、自分がいかに何もすることができないのかを痛感しながら生きています。若い人たちは、大なり小なり、自分の力でこの世を変えることができると信じていませんか？夢に溢れることはすばらしいことですが、この人生を経験していけばいくほど私たちが痛感することは、この罪に満ちた罪にのろわれた世界を変えることができるのは、自分の力ではなくて神の働きだけだということです。それがいかに辛く、悲しい、困難なものであるのかを経験していませんか？だから、人生を生きることに真剣なのです。だから、厳肅に生きていこうとするのです。そして、その生き方は人々から尊ばれ、品位を見出されるものです。

また、皆さん、経験ありませんか？小さな子どもたちが非常にやんちゃに暴れているときに、親がずっと近づいてゆき、子どもがその近づいてきたことに気付くと、子どもの態度がコロッと変わりませんか？急におとなしくしようと思ったりします。なぜですか？自分の上に立つ権威のある者が、そこにいるのを知っているからではありませんか？年配の男性はよく分かっているのです。自分の主人である、救い主である、主権者である神が、自分の人生の歩みのすべてにそこにおられることを。もしそうなら、厳肅に歩もうとしませんか？真剣に生きて行こうとしませんか？

私たちはみなユーモアのセンスを持っています。特に、ここは大阪です。面白おかしいことが悪いのではありません。でも、成熟した年配の男性は常に品位を持っています。人生を真剣に生きようとするゆえに、それを失うことがないのです。マッカーサー先生は、この人物についてこのように説明しています。「威厳のある人物というのは、絶対に浮ついた人物や平凡な人物でも、うわべだけの人物でもありません。表面的な人物ではないのです。彼は決して不道徳や下品で俗悪なことや、それ以外のあらゆる罪深いこと、神に喜ばれないことに笑いを覚えることはありません。この人物は決して悲劇的な事柄や、人々が傷つくことを見て、それをおかしいと思うことがないのです。」と。

男性の皆さん、皆さんは真剣に生きていますか？皆さんは威厳をもっておられますか？皆さんの生活は品位で特徴づけられていますか？皆さんの行動、皆さんのことば、皆さんの態度、それらは常に「私は主の前に立っている」というその事実を反映していますか？皆さんが楽しみ、喜んでいることは、人々からの称賛と誉れを受けるようなことですか？それともこれは人に見られたらちょっと恥ずかしいなと思うようなことですか？

この世には、この教会には、皆さんの家庭には、真剣な男性が必要なのです。皆さんがそのようにならないといけないうのです。

3. 思慮深い

別の言い方では「分別がある」です。ここでは「慎み深く」と訳されて使われていますが、このことばは最初に訳されていた「自制」ということばと非常に概念が似ています。しかも、興味深いことは、この「慎み深い」ということばが2章において何度も繰り返し使われているのです。非常に大切な概念の一つであることがよく分かります。

確かに、このことばは「自制」と訳すことが出来るそんな意味合いももっているのですが、ここで強調されていることは、その人物の思慮深さ、または、判断力の豊かさです。つまり、年配の男性は賢い人物であるということです。これまで自分が経験して来たいろいろなことを通して、また、学んできたことを通して、年配の男性は、自分も持っている肉体的な欲望や、この世の様々な基準や、この世がもたらす快樂への誘惑を断つことができる人物なのです。分別があるのです。何をすべきか、何をすべきでないのかを知っているのです。自らを制することができるのです。「これはすべきことではないから、私はやらない。」と言うのです。

年配の男性は、もうすでに多くのことを見て来たのです。多くのことを聞いて来たのです。この人生

がどんなものなかをよく知り、そして、信じている神が、その神のみことばがいかに信頼の置けるものであるのかを知っているのです。それゆえに、年配の男性は、この世が私たちに告げる多くの嘘を見抜き、何が真実で、何が真実でないのかを測り知ることができるのです。

このような自制、分別をもつためには、その人物の心がみことばに満たされていなければいけないと思いませんか？当然ですね。真理を知るのはみことばを知ることによるからです。みことばを知らなくて、どうして分別のある生き方をすることができるでしょう？みことばを知らなくて、どうして嘘と真理を見分けることができるでしょう？そして、その人の人生がみことばによって変えられなくして、どうして、そのような生き方をして行くことができるでしょう？

皆さん、年配の男性は思慮深いのです。なぜですか？なぜなら、彼らはみことばを学んだから、それが自分のものとなっているからです。彼らが賢いのは、彼らが神の知恵に沿って生きているからです。確かに、多くの間違いをしました。これからもし続けるでしょう。でも、年配の男性は、これまで犯した様々な間違いから多くのことを学び取っています。

若い男性は知恵が欠けていませんか？まだまだ知恵の足りないところがたくさんあることは分かっていますが、十年前、二十年前の自分の姿を考えたなら、いかに愚かだったのかと思います。箴言で教えています。父が子を諭すのです。「知恵を身に着けなさい。私のことばから離れてはいけません。」と。なぜなら、知恵がないからです。でも、年を重ねて成熟していくと知恵を得てゆきます。真理によって変えられ、分別のある者、思慮深い者になるのです。私たちの教会にはこのような人物が必要なのです。

神のみこころを求めて、神が喜ぶことをして行こうとしているからです。それなら、それをしっかりと吟味して、分別をもって判断し、決断し、進んで行くことができる人物が必要なのです。皆さんにそのような人物になっていただかなければいけません。皆さんの家庭にこのような人物が必要だと思いませんか？家族を導き、家族を養い、家族を励まして生きていこうとする中で、男性の皆さんが思慮深く、分別のある人物でなかったなら、皆さんの家庭はどうなりますか？いったい、だれが次の世代にこの知恵を渡していくのですか？

4. 健全であること

ここで「健全」と訳されていることばは、「健康である、弱い所がない、病に侵されていない」という意味です。パウロはここで、何において健全であるのかということをやより詳しく、三つの事柄を上げて説明しています。パウロは「信仰と愛と忍耐とにおいて健全であるように」と言います。年配の男性は何において健全であるべきなのでしょう？

1) 信仰において

「信仰において健全でありなさい」と言います。年配の男性の信仰は健康なのです。弱くないのです。病に侵されていないのです。確かなのです。つまり、年配の男性は揺るぐことのない信仰を持っているのです。神がいかに信頼の置ける方なのかということや、あらゆる人生の状況の中で経験し、そこに確信を持っているゆえに、どんなことがあっても信仰が揺らがないのです。この人は神に疑いを抱きません。神に疑問を投げかけません。

ちょうど、ヨブ記の最初の数章に記されているヨブのような者です。皆さんよくご存じですね。激しい試練が彼の上に襲ったときに、ヨブはその信仰を揺らがすことがなかったのです。どんなことがあっても「神は信頼の置ける方」と言い続けたのです。年配の男性はアブラハムのような人物です。たとえ、自分の子イサクをいけにえとして神の前にささげたとしても、神は約束してくださっているから、私はこのイサクから多くの子孫を得ることができるという確信の下に、見たこともない、聞いたこともない復活を信頼して、たとえ、殺しても、死の中から自分の息子を取り戻すことができると考えて主に従おうとしたその信仰です。

皆さんも信仰生活を通して、神がいかに信頼できる方なのかを学んでいませんか？いかに、疑う必要のない方であるかを知っていませんか？年配の男性は、主の前に誠実であることを証明し続けた人物です。何度も繰り返して、聖書のことばが教えて来たことを自分の人生でしっかりと見て、それを経験して「私には疑うことが一切ありません」と言う人です。「私は信じます！神の約束は必ず成就する。」と言う人です。その信仰が教会には必要ではありませんか？そのような信仰者が教会に必要ではありませんか？だから、パウロは言うのです。「年配の人物は信仰において健全であるように。」と。

2) 愛において

愛においても健全でないといけないと言います。愛が健康なのです。この愛とは明らかに、神に向かっている愛であり、兄弟姉妹たちに対する愛であり、ときに、自分の敵に対する愛でもあります。年配の男性は、何を愛するべきで、何を愛するべきでないのかを知っているのです。どのように神が自分を愛してくださり、どれ程大きな犠牲を自分のために払ってくださったのかを、実際によく理解しているか

ら、同じように自分も自己犠牲的に、献身的に愛そうとするのです。たとえ、その愛に対する報いがなかったとしても、たとえ、愛する相手はその愛を受けるのに相応しくないとしても、たとえ、その愛が拒まれたとしても、お互いの重荷を負い合うことによって、キリストの律法を全うすることができるというその思いをもって、人々を愛そうとするのです。ガラテヤ6：2「互いの重荷を負い合い、そのようにしてキリストの律法を全うしなさい。」。

皆さんよくご存じですね。Iコリント13：4-7「愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。：5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、怒らず、人のした悪を思わず、：6 不正を喜ばずに真理を喜びます。：7 すべてをがまんし、すべてを信じ、すべてを期待し、すべてを耐え忍びます。」、年配の男性は、パウロがここに「愛とはこのような特徴をもつ」と上げているこれらのことをそのまま生きている人たちです。私たちはだれも完璧ではありません。このようなことを言われると、「いやー、とても…」と言って頭をかきまします。でも、私たちはそのようになって行きたいと心から願って生きているはずで、なぜなら、そうなることができるようにしてくださっている神がいることを知っているからです。

私たちは愛することができるのです。なぜなら、神が最初に私たちのことを愛してくださったからです。兄弟姉妹を愛さない者は神を愛していないということを知っているからです。そのことを分かっている年配の男性たちは、自らの人生をかけて恐れることなく兄弟姉妹を愛そうとするのです。完全な愛は恐れを取り除きます。消し去るからです。

私たちの生きている社会においては、年を取ると気難しくなるというのではないですか？どうですか？皆さん、気難しいですか？聖書に基づいた信仰をしっかりと生きていた人物は、年を重ねるごとに、気難しさとは反対の方向にいるようになります。なぜなら、愛に健全だからです。その愛は到るところに見ることができます。その人がどのように未信者と接するのか、その人がどのように教会の中で兄弟姉妹と接するのか、どのように神を愛して行くのか？

3) 忍耐において

年配の男性は「忍耐」において健全です。「忍耐」は皆さんがよく知っていることばです。ギリシャ語でも非常によく使われていることばですが、これは二つの単語の合成語です。「～の下に」（前置詞）ということばと「留まる」（動詞）ということばが合わさって作られたことばです。「～の下に留まり続ける」ということです。一番分かり易いのは「重量挙げ」だと思います。オリンピックなどで見られたことがあるでしょう。重いバーベルが目の前にあって、幾つかの競技がありますが、そのバーベルを肩まで担ぎ上げて、その後、一気に頭の上まで持ち上げます。すぐに下ろすのではなくしばらく静止します。その重量をクリアしたかどうかは、実際に頭の上まで上げて、数秒間、しっかりと静止しなければいけません。数秒経つとブザーが鳴り、重いのを我慢して立っていた人は「良かった！」と言ってそれを投げ捨て、床が揺れ動くのです。その姿です。

年配の男性は困難を耐え忍ぶ能力があることを人々に示しているのです。自分たちの様々な失敗や、また、悲しい出来事、困難な出来事を受け入れることを学んでいる人たちです。それがたとえどのようなものであったとしても…。年配の男性は人生の多くの困難を知っています。それが肉体的なものであろうと精神的なものであろうと、経済的なものであろうと社会的なものであろうと家庭の問題であらうと教会の問題であらうと、何であらうと多くの困難を知っています。けれども、この男性は諦めることをしないのです。忍耐深いからです。つぶやかないのです。非難をし始めないのです。むしろ、留まり続け、どんなプレッシャーがあっても倒れることをしないと決意し、最後まで留まり続けるのです。なぜですか？年配の男性はよく分かっているからです。神がすべてのことを最善としてくださり、神の栄光を現わすために、私たちの益のために為してくださることを知っているからです。どんな困難がやって来ても、どんな患難が来ても、どのような苦しみ、悲しみ中に置かれたとしても、神は必ず逃れの道を備えてくださっているのを知っているからです。「もう無理だ」と思うどのようなことがあっても、神はその状況の中にあつて溢れんばかりの恵みを私たちに注ぐことができる、いや注いでくださっている方であることを知っているからです。だから、待っているのです。神がベルを鳴らしてくださって、「その重荷を下ろしていい」と言われるその日まで耐え忍び続けることができる人物なのです。

私たちもだんだん年を重ねていくと、いろいろな所から定期検診の案内が来ます。年を取るほどに、病院に行く機会が多くなります。私たちは自分の体に気をかけて、何か症状があればそれを改善しようと心がけます。原因を見つけないといけないと思って病院に行きます。皆さん、霊的な健康診断をしたことがありますか？皆さん、信仰において健全であるかどうかちゃんと調べたことがありますか？愛において健全であるかどうか調べたことがありますか？忍耐において健全であるかどうか調べたことがありますか？健康診断が悪いとは言っていないで、誤解しないでください。肉体を保つことは大切なこと

です。主が与えてくださっているいのちをしっかりと管理することは大切なことです。怠らないでください。でも、敢えて言うなら、自分の体の管理をする以上に、自分の霊的状态の管理をもっとしてください。しなければいけないことです。

だれもが間違いなく分かっていることは、肉体はいつか必ず滅びるのです。私たちのすばらしい希望は新しいからだを与えられることです。不健康になるかもしれません。でも、いつか必ず主はその不完全なからだを新しいからだへと変えてくださるのです。でも、もし皆さんが、不健康な信仰を、不健康な愛を、不健康な忍耐をもっているなら、それは大きな問題をもたらします。肉体的な苦痛よりも、はるかに大きな問題をもたらします。男性の皆さんが、家庭においてこのような健全さを持っていなかったら、いったい、だれが家庭を導くのですか？いったい、だれが模範になるのですか？皆さんが教会でそのような姿を見せて生きていなければ、いったい、だれがこの教会を支えるのですか？

年をとった男性だけでなく、この聖書の中に記されている年配の男性も年配の女性も、若い女性も若い男性もみな、なぜ、このような生き方をしなければいけないのでしょうか？それは神の栄光のためです。実は、この2章には、5節と8節と10節に「このような者でなければいけない」ということの目的が記されています。

2：5＝「慎み深く、貞潔で、家事に励み、優しく、自分の夫に従順であるようにと、さすことができるのです。それは、神のことばがそしられるようなことのないためです。」

2：8＝「非難すべきところのない、健全なことばを用いなさい。そうすれば、敵対する者も、私たちについて、何も悪いことが言えなくなって、恥じ入ることになるでしょう。」

2：10＝「盗みをせず、努めて真実を表わすように勧めなさい。それは、彼らがあらゆることで、私たちの救い主である神の教えを飾るようになるためです。」

つまり、パウロは、このような人物にならなければいけないのは、「あなたたちが神の名前を汚さないためだ」と言うのです。もし、皆さんがこのように生きていなければ神の名を汚しているのです。神のみことばを汚しているのです。皆さんは、神に敵対する者に指を指す理由を与えているのです。皆さんは神の栄光を現わさずに生きています。それは大変な問題だと思いませんか？神が喜ばれないことです。私たちはこのような人物になってゆかなければいけないのです。

この学びを通して、大きく学んだことがあります。年配の男性に求められている条件は四つありました。この四つのことはすべて長老と執事の条件の中に含まれているものです。ここにおられる男性の皆さんの全員が、これから先、長老になることも執事になることもないかもしれません。ある人はそうかも知れないけれど多くの方はそうではないかも知れません。でも、皆さんは必ず、年配の男性にはなるのです。そして、年配の男性はこの四つの特徴を身に着けていなければいけないのです。バランスの取れた人物で、真剣で、思慮深く、信仰と愛と忍耐において健全であること。

皆さんはどちらですか？クレテ人のように怠け者の食いしん坊ですか？それともパウロの言うような年配の男性になっていますか？60代以上の皆さんには言い訳がありません。50代以上の皆さん、皆さんは間違いなくそこに含まれているだろうと私は確信します。40代以上の皆さん、皆さんが含まれていなかったとしてもこうであるべきだろうと思います。30代の皆さん、皆さんはこのような人物に向かって歩みを進めていなければいけません。このように歩んでいる人たちを模範にしながら生きていかなければいけません。20代、10代の皆さん、皆さんが願うべき生き方はこのようなものです。女性の皆さん、皆さんのご主人はこのような人物ですか？皆さんの子どもたちはこういう人物になろうとしていますか？若い女性の皆さん、皆さんはこのような人物を慕い求めて生きていますか？

考えさせられるべきことがたくさんありますね。でも、間違いのないことは、このような年配の男性が教会に多くいるなら、その教会はすばらしい教会です。考えてみてください。ここにたくさんおられますか？自分はそういう人物ですか？